

<研究名称>

脳卒中による大脳皮質・皮質下損傷と脳幹損傷による嚥下障害の特徴の相違

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 所 属 リハビリテーション科
職 名 技師長
氏 名 木村 和久

実施担当者 所 属 リハビリテーション科
職 名 係長
氏 名 中澤 肇

<研究期間>

倫理委員会承認後より、過去の患者データを比較・検証を開始したい。

<診療・研究の目的>

急性期脳血管疾患患者における意識障害や麻痺の程度は経口摂取の可否に関わる。廃用防止のため、急性期患者であっても経口摂取を早期に開始し、栄養状態を整えることはその後の心身状態回復状況を左右する一因となる。一方、嚥下障害の状態に気が付かず、誤嚥しながらも食事を開始し、全身状態の低下を招く場合がある。脳卒中により嚥下障害をきたした症例の嚥下状況を脳部位別に検証することで、嚥下造影検査（以下：VF）や経時的な評価の必要性、注意事項を考察する。旭川赤十字病院医学雑誌 Vol. 34, 2021 に投稿する予定である。

<実施内容（方法）>

大脳皮質・皮質下損傷による嚥下障害患者と脳幹損傷による嚥下障害患者の VF 結果から、後方視的に誤嚥と喉頭侵入の有無、不顕性誤嚥の有無、咽頭残留の程度、に関して 2 群の差を調査し、先行研究を踏まえて食事開始や継続に関する注意点を考察する。

<危険性（副作用）等>

特になし

<倫理上問題になると考えられる事項>

データ提示により個人が特定されないよう、氏名などの個人情報は一切記載しない。

患者情報の取得に電子カルテを開示し検査データを用いた研究を行う。対象となる個人および家族等の関係者に危険は無く、不利益になる事はない。個人情報が特定されないこと、知りえた情報やデータは本研究でしか使用しない。治療が終診しており被検者の同意取得は困難であるため、研究対象者は何の不利益も受けることなく、研究協力から離脱（オプトアウト）できる旨を病院のウェブサイトの情報開示するとともにオプトアウトの方法についての説明を掲載する。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院

リハビリテーション

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648